

日奈久断層帯における古地震調査結果と令和 8 年熊本地震

宮下由香里（産総研地質調査総合センター）

ポイント

- 2016 年熊本地震後に、文科省委託業務「平成 28 年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査」の一環として、日奈久断層帯の 3 地点でトレンチ調査を行い、同断層帯の古地震履歴を明らかにした。
- 2026 年熊本地震の際に、上記トレンチ調査で確認された断層が再度動いたのかどうかを調べるために、現地調査を行った。
- その結果、3 地点において、トレンチ調査で断層が確認された場所の直近に地表地震断層が認められた。



図 1 トレンチ調査地点位置図



図 2 川田町西トレンチ（八代市）の調査結果

左上：地理院地図に写真撮影位置・方向を示した。右上：2017 年度および 2018 年度にトレンチ調査を行った際の平面測量図。左下，中下，右下：いずれも北西側低下を示す杉型雁行割れ目。写真①の雁行割れ目群と写真②～写真③の雁行割れ目群は、各々がさらに大きなスケールの雁行割れ目状に分布している（左上図の赤破線）。